



長和町6年 南河凜 記者

今の時代も1万年続くように



俳優で日本考古学協会会員の苅谷俊介さんの話を聞いて、一番印象に残ったことは、縄文人は自然と共生していて心が豊かということです。

縄文時代は1万年以上続きました。ひとつの文化が1万年以上続いた例は、世界中で日本だけだそうです。時代がめまぐるしく変化したヨーロッパの人が聞くと「ウソだろう」と言われるそうです。

なぜ縄文時代が1万年以上続いたのでしょうか？ それは、縄文人は自然と共生していて、争いが少なかったからだと思われました。縄文人は、太陽をあび、土を踏み、土を触っています。そして、生き物と木と草と共生しています。だから縄文人は、1万年以上もゆたかな文化を伝えていけたんだと思われました。私は今のこの時代も1万年以上続くようにしたいなと思えました。



茅野市4年 田中優香 記者

自然を大切にし、災害おそれた



体験学習の前に、こうしの苅谷俊介さんと宮下健司さん、早川知佐さんのお話を聞きました。縄文時代の人たちは、自然とくらしっていて、自然をとでも大切にするとともに、自然災害のこわさもよく知っていたそうです。縄文の土器は、人間の思いをねん土にこめて作っているの、生命力やエネルギーを感じることができます。縄文時代の人たちの心を学べるいいこうえん会でした。

木曾町6年 榎原立冬 記者

足のうらで土を感じて生きていた



信毎こどもスクールで、苅谷俊介さんの縄文時代の話をお聞きしました。苅谷さんは、自称「生きた縄文人の化石」だと言っていました。縄文時代の人たちは、いつも足のうらで土をかんにて、物を心で見て、きれいな川の氷を飲んで、すんだ空気を吸って生きていたそうです。でも今は、川の氷はよごれているし、空気はもうすんではなくなっていました。苅谷さんはそう、言っていました。



長野市3年 加藤千翔 記者

黒曜石 すてい切れ味



ほくは、じょうもん人のりょうりのしかたなどをまなびました。じょうもん人が、さかななどをさばくときには、こくようせきでさばきました。すこいきれあじて、びっくりしました。

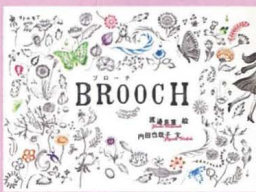


肉などをやくときは、石の上でやきました。石の上でやいた肉はおいしかったです。あと、やきいもみだいのをたべました。おいしかったです。じょうもん時代は、ほうちょうなどがないのにくらせて、すこいなーと思えました。

「BROOCH」(70-千)

作: 内田也哉子 絵: 津邊良重 リトルモア

ちよっと変わったふんいきの本です。「むかしむかし 忘れものに気付いたのは ずっと昔 世界中を歩き回っているうちに あまりにいろいろなおことがありすぎて 忘れてしまいました だいたいなもの」



文は、女優でもある内田也哉子さん。うすい紙にかかれたさし絵にのって、人がだれでも一人であることのみさしさと、強さが伝わってきます。茨木のり子さんの詩「みずうみ」にも、似たところがあります。「人間は誰でも心の底に しいんと静かな湖を持つべきなのだ(中略)さらさらと他人の降りてはゆけない魔の湖」ふっとさみしくなったり、ほかの人と自分をくらべてしまったり、気分が晴れなったり。そんな時にもいいかな。少し高い(定価1800円)ので、図書館でさがしたり、リクエストしてみてね。(佳)

本の
とび
び
ら

みんなに読んでほしい**大好きな本**をぜひ教えてね。はがきやお手紙、ファクス、メール、なんでもオッケー。表面にある「こども記者クラブ」あてに送ってください。けいさいのおれいに「なーのちゃんタオールハンカチ」をプレゼント!

Hello 地域活動部のニューフェイス

いろんなことに どん欲になろう

はじめまして。7月から、こども新聞を担当することになった中山有季です。よろしくお願ひします。新聞記者になったのは2004年4月です。ことして9年目ですが、まだまだ知らないことだらけで、日々、困ったり、わからないことを先輩に聞いたりしています。

私が小学生だった時は、新聞記者のイメージとはほど遠い、ぼーっとした、人と話すのが苦手な子どもでした。勉強も運動も苦手で、好きなのは休み時間くらいでした。そんな私がいろいろなことに積極的になったのは、中学生になってソフトテニス部に入ったことがきっかけでした。私は運動音痴だったのではじめはへただったし「仕方ないや」と思っていたのですが、あるとき顧問の先生に「もっと欲を出せ」と言われました。私にもできるのかな・・・と、ほかの部員より朝早く練習を始めたりしたら、大会

松本市1年 音琴光里 記者

縄文人は料理が上手!



わたしはりょうりはんにさんかしました。ますさいしょに、こくようせきといういしを、シカのつのでわってほうちょうにしました。すぐにきれるほうちょうができて、おどろきました。

それから、さかなのおなかをきって、ないぞうをだして、きれいにみずであらってから、おなかとせなかとあたまに、たけぐしをさしてやきました。つぎに、サツマイモは、ホイールでつつんで、つちのなかに、ひでやいたたくさんのいしといっしょにいれて、おおきいはっぱとつちでふたをしました。しばらくすると、つちからゆげがでてきました。つちをさわると、あたたかかったです。

そのうちに、さかながやけたので、みんなでわけてたべました。さなかのあじがしておいしかったです。さいごに、ほりだしたサツマイモをわってみると、いろいろ、やわらかく、あまくなっていました。

じょうもんじだいのひとたちは、りょうりがじょうすで、いまでもキャンプでつかえるとてもおいしいほうほうです。わたしは、またなつやすみにやってみたいとおもいました。

信毎まんが教室

「茶花ぼこ先生まんが教室」

8月10日(金) 午後2時00分～4時30分

【場所】信濃毎日新聞社 2階講堂

【講師】茶花ぼこ先生

【定員】先着20人(あと3人)

【内容】①茶花ぼこさんが住むインドネシアのお話

②15年後の自分をイメージした一コマまんがにチャレンジ!

表面の「こども記者クラブ」あてに申し込みしてね。

午前の中高生の部も大募集集中。



地域活動部 こども新聞担当 なかやま ゆ き 中山有季

で勝てるようになり自信がきました。そうすると、テニス以外でも、何に對しても真剣に取り組めるようになり、勉強も嫌ではなくなりました。いろいろなことに興味があくようになったことは、新聞記者になったことと無関係ではないように思っています。

これから、みなさんと一緒にいろいろの人に話を聞いたり、知らない分野のことを取材したりできるのがとても楽しみです。みなさんも興味のあることにどんどん挑戦してください。私も、こども新聞で、いろいろなこと挑戦してみたいと思っています。

